

高田松原の再生に向けて



高田松原再生講座（第6回）の開催

第6回「高田松原再生講座」は終了しました。

たくさんのご参加、ありがとうございました。

▶ [第6回 開催報告はこちら](#)

陸前高田市は、震災復興計画に高田松原の再生を位置づけ、市民の総意として美しい松原を取り戻すことを希求しています。

NPO法人高田松原を守る会は、（一財）ベターリビング・（一財）日本緑化センターの支援を受けて市民による高田松原再生活動を推進しており、高田松原の歴史、文化、環境、地元とのつながり、さらに再生に必要な技術と知識を学び、松原再生活動のエネルギーを持続し、次世代へ再生活動を継承することを目的に、本講座を2014年度から毎年開催しています。

この講座を通して、市民の皆様の松原に対する一層の理解と2017年度から始まった松原の植栽・保育活動の核となるボランティア育成に力を入れていきたいと考えています。



▶ [ちらしの拡大 \(jpg・813KB\)](#)

過去の開催

- ▶ 第1回（2015年） [講座の様子 / プログラム](#)
- ▶ 第2回（2016年） [講座の様子 / プログラム](#)
- ▶ 第3回（2017年） [講座の様子 / プログラム](#)
- ▶ 第4回（2018年） [講座の様子 / プログラム](#)
- ▶ 第5回（2019年） [講座の様子 / プログラム](#)



開催概要（第6回）

日時	2020年2月22日(土) 13:00~17:00 (開場 12:30)	
場所	陸前高田市コミュニティホール 大会議室 (外部リンク) (岩手県陸前高田市 高田町字柵ヶ沢210番地3)	
主催	NPO法人高田松原を守る会、(一財)ベターリビング、(一財)日本緑化センター	
後援	岩手県、陸前高田市、(一社)日本造園建設業協会岩手県支部、陸前高田ロータリークラブ、日本海岸林学会、(一社)日本樹木医会岩手県支部、(一社)日本松保護士会	
参加費	無料 (定員100名、 事前申込は不要 です)	
内容	13:00	開会あいさつ

	13:10	2019年度の活動報告 NPO法人高田松原を守る会
	13:35	アダプト方式による高田松原の保育システム 瀧 邦夫 (一財)日本緑化センター 理事
	14:00	講演 マツ材線虫病からマツを守るために必要なこと 中村 克典 (国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所
		休憩
	15:00	松原の厄介者"クス"で「ツルかご」をつくろう! 実演：小山 芳弘 NPO法人高田松原を守る会 副理事長
	17:00	開会
※敬称略。内容は変更になることがあります		
ダウンロード	▶ちらしのダウンロード (jpg 813KB) ▶開催要領 (講座内容) のダウンロード (PDF 166KB)	
お問い合わせ	(一財)日本緑化センター 企画広報部 TEL : 03-3585-3561 FAX : 03-3582-7714 Email: matsusai@jpgreen.or.jp ○を@に変えて送信してください	

本講座は、一般財団法人ベターリビングが主催する「高田松原再生活動 (ブルー&グリーンプロジェクト)」の一環として実施するものです。



高田松原再生講座（第6回）報告

2020年2月22日（土）、陸前高田市コミュニティホールにおいて、**第6回 高田松原再生講座**を開催しました。

▶ [開催案内とプログラムはこちら](#)



熱心に聞き入る講座参加者のみなさま



ベターリビング 東ヶ崎グループ長

開会の挨拶は、（一財）ベターリビング 住宅部品評価グループ長の東ヶ崎氏が、

ブルー&グリーンプロジェクトを通して育てているクロマツ苗木を、2017年から松原に植え始め、2020年度までで約1万本を植樹し、これから始まる保育のフェーズのお手伝いをさせていただきたい

と伝えられました。



高田松原を守る会 鈴木理事長

次に主催者を代表して、NPO法人高田松原を守る会 理事長の鈴木善久氏が、

東日本大震災からまもなく9年目を迎え、一日も早い完全な復興を望んでいる。本日の講座は座学に加え、昨年好評だった松原の厄介者「クズ」のつるでカゴを編む実演を予定している、今回を含めこれまでの講座で学んだことを、松原再生に活かしていきたい

と述べられました。



高田松原を守る会 阿部理事

続いて、NPO法人高田松原を守る会 理事の阿部重人氏から、活動内容等の報告がありました。

概要は、以下のとおりです。

2019年度の活動内容

1 植樹活動

4～6月に7回行い、ボランティア延べ1,029名、会員延べ65名が参加して合計2,212本のクロマツの苗木を植樹しました。

2 高田松原での草刈り作業

5～10月まで45回行い、ボランティア延べ1,382名、会員延べ220名が参加しました。

3 台風19号被害への対応

2019年10月12日に日本に上陸した「令和元年台風19号」により、これまで市民の手で植樹したマツ苗の約600本が倒伏しました。後日、苗木の引き起こしと支柱設置600本を行い、マツ苗と支柱をていねいに結束しました。

4 2020年度植樹の準備、タケの伐採と加工

苗の支柱、防草シート固定用のタケ材（4,000本）、タケ串（8,000本）、防草シートの裁断（3,000枚）を行いました。

5 講演会の開催

西根中学校「復興教育・学習発表会」、興田中学校「震災及び守る会の活動」、一関金沢小学校「高田松原と震災」など6回の講演会を行いました。

6 大会・会議

白砂青松再生の会in陸前高田大会、岩手県第2回いわての森林感謝祭、高田松原津波復興祈念公園市民協働グループ会議、高田松原を守る会定期総会など9回を行いました。

7 震災前の高田松原海浜植物保護育成

ニッコウキスゲ、ハマナス、ハマエンドウ、ハマヒルガオなど8種を保護・育成しました。

8 渡辺復興大臣から感謝状贈呈

高田松原を守る会の活動が被災地の復興に大きく貢献したと評価され、渡辺博道復興大臣から感謝状をいただきました。感謝状の贈呈式は、7月19日(金)に釜石市の市民ホールTETTOで行われ、贈呈式の後は渡辺復興大臣との懇談の時間も設けられ、高田松原を守る会の活動について報告するとともに、大臣からは松原再生に向けた激励の言葉もいただきました。

また、次の3点を課題に掲げ、次年度は4月19日、4月26日、5月10日の3回の植樹を行う予定を紹介しました。

- ・課題1 年々生じる課題への対応（クズやマメ科雑草の大量発生など）
- ・課題2 守る会は高田松原復興のリーダーに協力する団体との位置づけ（保育活動、松原の歴史継承と環境保全、関係機関との連携・協力）
- ・課題3 松原復興をめざす次世代の担い手育成



日本緑化センター 瀧理事

アダプト方式による高田松原の保育システム

高田松原での植樹は2020年に完了する予定ですが、植樹した苗木が健やかに成長するためには今後の保育が適切に行われることが重要です。

そこで、当センター理事の瀧から「アダプト方式による高田松原の保育システム」と題して、市民の皆さまにも保育活動に参加していただく保育システムを提案しました。



森林総研 東北支所 中村グループ長

マツ材線虫病からマツを守るために必要なこと

松くい虫被害に対する防除戦略の権威である、(国研)森林総合研究所東北支所の生物被害研究グループ長・中村克典氏を講師としてお迎えし、マツ材線虫病のメカニズムや一般的な防除手法を解説していただいた後、森林病虫害等防除法における「戦略的防除」を高田松原で行うにはどうすべきであるかをわかりやすく解説していただきました。



「ツルかご」づくりの様子

講演の後には

「松原の厄介者"クズ"で『ツルかご』をつくろう!」が行われ、約30名の希望者が参加しました。

最初を守る会副理事長の小山氏がかごづくりの実演をしてみせたものの、参加者の中にはなかなかうまくいかない人も見受けられました。

しかし、小山氏による丁寧で楽しい指導を受け、2時間かけてすべての参加者が何とか完成にこぎつけました。

最後に、守る会 小山副理事長が閉会の挨拶を行い、約80名にご参加いただいた講座を終了しました。

この講座は、毎年1回行う予定です。